

平成30年第7回教育委員会定例会

新 十 津 川 町 教 育 委 員 会 会 議 録

平成30年7月12日 開会

平成30年7月12日 閉会

新 十 津 川 町 教 育 委 員 会

平成30年第7回教育委員会定例会

平成30年7月12日（木）  
午後4時30分 開会

○ 議事日程

- 1 開会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 行事報告
- 4 報告事項  
報告第33号 平成30年度町内小中学校在籍児童生徒数（平成30年7月分）について  
報告第34号 いじめの状況等に関する調査結果について
- 5 その他
- 6 閉会

○ 出席者（5名）

久保田 純 史  
新 田 右 子  
荒 山 直 人  
近 藤 陽 介  
松 倉 寿 人

○ 欠席者（0名）

○ 職務のため出席した者の氏名

事務局長	中 畑	晃
主 幹	富 田	豊
学校教育グループ長	西 村	幸 真

○ 開会及び開議の宣告

◎久保田教育長

ただいまより、平成30年第7回教育委員会定例会を開会いたします。

○ 議事日程の報告

◎久保田教育長

本日の日程は、お手元に配布しております議事日程により順を追って進めてまいります。

○ 会議録署名委員の指名

◎久保田教育長

日程第2、会議録署名委員の指名を行います。本日の会議録署名委員の指名につきましては、荒山、近藤両委員を指名いたします。

○ 諸般の報告

◎久保田教育長

続きまして、日程第3、行事報告を議題といたします。事務局より報告をお願いします。

◎中畑事務局長

それでは、行事報告につきましては、富田主幹からご報告申し上げます。

◎富田主幹

それでは、平成30年6月12日から本日7月12日までの行事をまとめておりますのでご説明申し上げます。まず6月12日、風間杜夫の落語独演会&トークショーが文化協会主催で行われました。券売は275枚ありまして、257人の入場がありました。6月17日、北海道命名150年記念講演会ということで、松浦武四郎とその時代と題しましてノンフィクション作家の合田一道氏の講演会が開催され、69人の来場がありました。6月24日、第38回全町一般男子ソフトボール大会が河川敷グラウンドで開催され、10チームが熱戦を繰り広げました。総進区が優勝、文京ブンブンズが準優勝となりました。6月28日は町内の藤原ピアノ教室生徒の全国大会の結果報告がありまして、6月23日から東京都で行われました第10回全国大会のグレンツェンピアノコンクールに藤原教室の生徒2人が参加し、佐藤花さんが小学生1、2年生の部で銅賞、清水花菜さんが小学校5、6年生の部で優秀賞の結果となっております。7月5日、児童生徒職員母村訪問交流事業保護者説明会が改善センターで開催されました。今年は7月24日から27日の日程で小学校5年生22人、引率者6人の計28人が十津川村を訪問いたします。7月8日、第24回ピンネシリ登山マラソンを開催しました。今年度の受付人数は、山頂コースが126人、30キロコースが53人、15キロコースが52人、町民コースが99人、合計330人、昨年が参考までに276人で増加しております、出走しまして300人が完走をいたしております。7月9日、小林香織のサマーライブツアー2018が音楽協会主催で行われまして、券売が217枚、招待を16人しまして合計224人の入場がありました。また、今回は愛知県からの熱狂的なファンのご来場もありました。7月10日、11日、中体連空知大会が開催され、新中から卓球男子個人と剣道が参加しましたが、成績を申し上げますと、卓球の男子が伊藤優汰君がベスト8進出、剣道男子個人の部で山内麗生君が優勝、2位に南大祐君、3位に伊

藤大知君、女子の部で中鉢絢乃さんが優勝、3位に加藤緒美さん、斉藤菜々美さんが入賞しております。団体は男女ペアで優勝しまして、男子3位の伊藤君と女子3位の斉藤さんを除く個人4人と団体の男女ペアが8月3日から小樽市で行われる全道大会に出場いたします。次にお手元の資料に掲載はありませんが、スポーツ少年団の活動等の結果についてご報告いたします。最初に、新十津川町中央野球スポーツ少年団ホワイトベアーズが6月30日に行われたホクレン旗争奪第36回北海道少年軟式野球選手権空知支部大会で優勝しまして、8月4日から6日に札幌市で行われる全道大会に出場いたします。次に、新十津川尚武会の、尚武館の小学生、中学生が全国大会の出場権を得ておりまして、6月17日、江別市で行われました第42回北海道道場少年剣道大会において小学生チームがベスト8、中学生チームが団体3位、中学生尚武会チームがベスト16となりまして、今月24日から日本武道館で開催されます第53回全国道場少年剣道大会へ出場することとなっております。6月24日、小樽市で開催されました第46回道新杯少年剣道大会では個人戦小学3、4年生の女子の部で高橋一絆さんが3位、中学男子の部で山内麗生さんが準優勝を果たしております。また、7月1日に旭川市で行われました第52回青少年剣道旭川大会で団体小学生の低学年の部が準優勝、中学生の男子の部が第3位、女子の部が準優勝となっていることを併せてご報告いたします。次に6月23日から7月1日まで札幌市で行われましたガーデニング甲子園におきまして、新十津川農業高校の作品が昨年、一昨年と大賞を連続して受賞しておりましたが、今年度につきましては特別賞に選ばれております。以上で行事報告を終了いたします。

◎久保田教育長

行事報告の説明が終わりました。質疑はございませんか。

(「なし」という声あり。)

◎久保田教育長

それでは、行事報告を報告済みといたします。続きまして、日程第4、報告事項を議題といたします。報告第33号平成30年度町内小中学校在籍児童生徒数(平成30年7月分)について事務局より説明願います。

◎中畑事務局長

それでは、議案書3ページをお開きください。7月1日現在、小学校が312人、中学校が165人、いずれの学年も異動なく、前月と同数でございます。両校合わせまして477人の在籍でございます。なお、特別支援学級についても異動はございませんでした。以上、報告第33号の説明とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

◎久保田教育長

報告第33号の説明が終わりました。質疑はございませんか。

(「なし」という声あり。)

◎久保田教育長

報告第33号は報告のとおり了承することでご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり。)

◎久保田教育長

異議なしと認めます。したがって、報告第33号平成30年度町内小中学校在籍児童生徒数(平成30年7月分)については報告のとおり了承されました。続きまして、報告第34号いじめの状況等に関する調査結果について事務局より説明願います。

◎中畑事務局長

それでは、5ページをお開き願います。表をご覧ください。平成30年度において4月からいじめられたことがあると回答したのは、小学生全体で54人、中学生で10人、合わせて合計64人でした。このアンケートを受けまして、担任が児童生徒と面談し、表情や様子をきめ細かく観察するなどして確認し、いじめに該当するかどうかを判断しているところでございます。その結果、継続して悪口を言われているような案件もなく、小中どちらにおいても該当するものはなかったとの報告を受けております。参考までに、進級、進学に伴ってどのように推移したかが比較できるように29年度と28年度の結果についても掲載させていただいております。例えば、平成28年度にいじめられたことがあると1番多く答えたのは小学3年生。当時、16人でしたが、進級後の小学4年生時点においては、5人、そして平成30年度に入って小学5年時には7人というふうになってございます。このように表のほうをご覧くださいにいただければと思いますが、調査期間が限定的ですのでこの数値をもって要因などを特定できるものではありませんが、あくまでも参考としてご参照いただければと思います。次に各表の1番下にいじめは許されないことだと思ふという設問がございしますが、その解答を見ますと小中合計では昨年度よりも30年度の割合が増えております。このことは良い傾向にあると言えますが、学年別での意識の推移について検討する必要があるということから、下にグラフで示してございます。小学校、小学4年から小学6年生までについては、進級するにつれて概ね年々意識が良い方向に向かっているというようなグラフの見方で表しております。例えば1番左、小4、現在の小学4年生が小学2年生の時に回答を得た割合、小学3年の時に、3年時に回答を得た割合、そして今の小学4年生ではどうかというところで見ますと、年々この割合が許されないことだと思ふ割合が増えているということではいい傾向にあるのかなというふうに見て取れるわけですが、中学生に入りますと、例えば中学1年生が、今の中学1年生が小学校5年生のときには80パーセントを超えていた訳でございしますが、それが年々減って行って現在では66パーセントに下がってきているというところがございます。このようなことで傾向を見ながらまた学校ではその指導にあたっていただくようお願いをしているところでございます。以上申し上げまして、報告第34号の説明とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願いを申し上げます。

◎久保田教育長

報告第34号の説明が終わりました。質疑はございませんか。

◎近藤委員

例えば29年度の中学校1年生でいじめは許されないことだと思ふということで100パーセントという数字になっているのですけれども、30年度になるとまたちょっとがくつと下がるような感じになっています。難しいのかもしれないのですけれども、この数字が大きいほうが望ましいのかなというふうに思いますので、何とか許されないことだと思

うということで指導のほうよろしくお願いします。

◎中畑事務局長

この変動が、そうなったかというところはなかなかつかみづらいところがございますけれども、いずれにしましてもこう年齢的に難しくなる、思春期迎える中でそのようなことが、いじめが許されないことだと思うという数値が下がるというのは非常に性格を形成する上でも大切な設間だと思いますので、今後、学校教員に対しまして指導するように努めて、こちらからもその指導をするように指導していきたいと思っております。以上です。

◎久保田教育長

よろしいですか。

(「はい」という声あり。)

◎久保田教育長

それでは、なしということでございますので、報告第34号は報告のとおり了承することでご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり。)

◎久保田教育長

異議なしと認めます。したがって、報告第34号いじめの状況等に関する調査結果については報告のとおり了承されました。続きまして、日程第5、その他を議題といたします。事務局からありますか。

◎中畑事務局長

ございません。

◎久保田教育長

それでは、2点ほど口頭で報告させていただきます。1点目でございます。去る7月10日に、岩見沢市におきまして第2回空知管内学校における働き方改革推進会議が開催されました。空知管内における、アクション・プランに基づく取組みについて意見交換をしたものでございます。去る3月に北海道アクション・プランの策定を踏まえて、それぞれの市、町でアクション・プランを策定していただきたいということで、前回、1回目の会議では5月に開催したわけですが、新年度の学校経営も含めて来年1月までを目途に策定していただきたいということで教育局からの説明もあったところでございますが、速やかに、市、町のアクション・プランを策定しているところも複数の市、町ございました。そのような中、先般の会議におきまして、教育局で説明内容、若干修正ありました。北海道教育委員会ではスポーツ庁ガイドラインを踏まえ、部活動の在り方に関する方針等を本年度中に策定、9月頃に素案、11月頃には案を道議会に示し、学校への周知期間を確保した上で方針を策定するというので、これについては前回そのような説明がない中で、部活動につきましては週1日休む内容のアクション・プランをスポーツ庁のガイドラインを踏まえて見直すということに変わりました。今後、本町におき

まして学校現場、小中学校の状況等も踏まえた中で11月頃に周知されるスポーツ、部活動の関係の道からの周知内容も踏まえた中で、本町においても学校現場の状況を確認してまた来るべき時期に、教育委員会にお諮りしたいと思っておりますので報告に代えさせていただきます。それともう1点でございます。滝川市におきまして公立高等学校配置計画案に係る説明会、意見聴取の会が開催されました。今年の6月に北海道教育委員会で高等学校希望進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として中学校卒業生数の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校、学科の配置や規模の適正化を図るために、平成31年度から33年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成34年度から37年度までの見通しを示したものであるということで、本町に該当する空知北学区につきましては、平成32年度に深川東高校を商業に関する学科として変更するというところでございます。平成33年度には滝川高校の1クラス減を行うということで、お手元のこの縦型の表でございますが、空知北学区ということで一番上の区分、平成30年度には、学区内中卒者数が1,029人おりました。平成32年には933人、平成33年には851人、平成30年と33年度を比較しますと、学区内で178人の中卒者が減少するというところでそれぞれここに記載のとおりでございます。そのような中、下段の深川東高校については商業科を1減とした中で計画変更と、そして33年度、滝川高校については普通科を△1学級減ということにするものでございまして、平成34年から37年度までの見通しはここに記載のとおり4年間で1から2学級相当の調整が必要となり、また欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校、学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要となります。滝川市内において再編を含めた定員調整の検討、深川市内において欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要となります。小規模校について中卒者数やこれまでの進路状況、学校、学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含めその在り方の検討が必要となり、農業に関する学校としては、本町の新十津川農業高校が該当になりますが、農業に関する学科を置く高校について5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は当該市町村を始めとした地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその効果を勘案した上で再編整備の検討が必要というようなことになってございます。この説明を踏まえて、意見を募りました。もう1枚の表でございます。空知高等学校配置計画検討資料ということで、30年度のこの2番、定員及び欠員（平成30年度）ということで、これ高校名が記載されておりました、30年度の滝川高校については280人の定数、普通科6全日制240人、定時制40人、280ということですが、普通科、理数科合わせて定員を満たしているといった中で平成33年度の1クラス減は理解できないという意見が殺到しております。そのような中で、道教委の答弁といたしましては、空知北学区全体の中での先ほど申しました178人減少する中での学区内の均衡ある学習環境の充実、定数ということもあつての今回の案ですという意見ですが、滝川高校の減少に関する意見といたしましては、他高が減少する影響を受けているのではないかと、そのような意見もございました。そのような中で、再考を要するという意見が、理解に苦しむという意見が出まして、そのような中で道教委としては貴重な意見として承るといふ形の中で、答弁をされていたところでございます。また、北学区においては職業校についても確保しなければならないなど、均衡ある中での今回の案でありますということでもございました。これらの地域説明会を経て、9月には、最終的な高校配置計画が定まるという予定になっておりますので報告に代えさせていただきます。滝川市においては、この卒業生者数が、1番のところを見ると30年度が317人。そしてまた33年度278人と減っていますけれど、34年には増加し326人。このようなことも踏まえ、やっぱり理

解に苦しむ、理解できないというか質問に対する回答になっていないという意見も出ていました。

◎松倉委員

この資料で農業に関する学科の云々と書いてありますけれども、これは北海道教育委員会の考え方で、例えば新十津川農業高校も1クラス20人未満になったら、ボーダーラインということを書いているのですか。

◎久保田教育長

34年度以降については、ボーダーラインということですが、3月に示された新しい高校づくりに関する指針が示されまして、新十津川農業高校は、第1次産業ということで、2年連続1桁になったらその時点で廃校ということが示されております。原則は20人未満ですが、市町村でいろいろな高校と密着した中の取組み、あるいは支援等を、ここで書いてある、記載されておりますように地域における具体的な取扱いをしている場合については例外も認めますということで指針に示されていますので、ここでは20人未満と書いておりますけれども、そういうことになってございます。この計画案のときはそこまで記載していないですけど、道の指針のほうではもうそういうふうに書いてあります。

◎近藤委員

これ何かこの区間の区切りも何かあるのですか。34年から37年までとか、何か4年ごとに何かそういう計画するとか。

◎久保田教育長

向こう、先を見据えてですね、この今30年度時点で34年以降、この、要するに今30年度ですから、31、32、33、そして34年から向こう4か年と1年1年こうずれているので、そういう毎年見直しています。

◎近藤委員

37年度以降、38年、9年というのは、逆に減少する。生徒数か、中卒者数ですか。

◎中畑事務局長

今の小学2年生です。

◎近藤委員

そうですか。ちょっと先読みのなところが減るからとっているのかなと。

◎久保田教育長

先を見据えています。

◎近藤委員

先はもうちょっと上がるのですか。

◎中畑事務局長



推定ではなくて、実際に小学生の数でやっていると思います。

◎久保田教育長

実数の数値の状況でございます。ほかに質疑ございませんか。

◎久保田教育長

よろしいですか。

(「はい」という声あり。)

◎久保田教育長

それでは、以上をもちまして、平成30年第7回教育委員会定例会を閉会いたします。

(閉会 午後5時5分)

会議の顛末を記載し、その旨相違なきことを証するためにここに署名する。

会議録署名委員 荒 山 直 人

会議録署名委員 近 藤 陽 介